

令和7年度 部局経営目標

年度	令和7年度	作成日	令和7年4月1日
部局名	教育委員会	部局長名	浅野 晃彦
(1) 部局の方向性 (テーマ)			
・一人ひとりの可能性を広げる 共生社会実現のため、誰もが安心して学ぶことができ、多様性を認め合い、互いに支え合う社会を目指す。 ・真庭を愛する「ひと」、心豊かな「ひと」をつくる 地域ぐるみの関わり合いや見守りにより、子どもも大人も思いやりや地域のつながりを感じる心を育み、暮らしの中でそれを次世代に伝え、繋げる「ひと」となる。 ・教育を地域で支える仕組みをつくる 学校・家庭・地域が支え合いながら、それぞれの役割の中で教育を担う。			
(2) 部局の重点施策			
1. 安心とつながりの中で人が育つまちづくり	(1) 誰もが安心して学べる場づくりの推進 (2) 大人と子どもが共に育つ場や機会の創出 (3) 公立図書館としての存立基盤の強化 (4) 学校給食をとした食育・郷育の推進 (5) 高校生の多様な学びの応援		
(3) 事業成果目標		指標名及び目標値	
●人口減少抑制対策 市内高校入学者数の向上（教育魅力化推進事業）（再掲） 高校は、真庭の未来を担う子どもたちのより良い成長はもちろん、活気があり持続可能な地域をつくる上でも大切な役割を果たしています。令和4年度「高校魅力化推進事業」として取組をスタートさせ、令和5年度からは「教育魅力化推進事業」の中に組み込み、義務教育や社会教育と合わせ一貫性を持って取り組んでいます。 令和7年度は以下のとおり高校の魅力化に取り組めます。 ・勝山高校：進学校としての実績の上積みを目指します。 ・蒜山校地：学校設定教科の充実と学習交流センターを核とした地域と学び合うプログラムの充実による教育魅力化と積極的な情報発信を行います。 ・真庭高校：真庭高校ならではの教科学習の充実、地域と連携した探究的学習活動による教育魅力化と積極的な情報発信を行います。 ・高校2校の管理職が顔を揃えての市教育委員会との定期的情報交換・意見交換の場を設け、引き続き課題解決策を模索します。		指標： ①市内高校入学者数の前年比 ②2校連携事業の実施数 目標値： ①プラス10% ②1回以上 （令和6年度実績値：①市内高校入学者数181人（マイナス9%）②2校連携事業の実施1回）	

●人口減少抑制対策 学校給食の地産地消の推進 (再掲) ・学校給食を「郷育」の一環と位置づけ、児童生徒と農業者を繋げ、食材を通じた真庭の豊かさを知る機会を提供します。真庭市の食材のみを使用した「真庭食材の日」、通常の給食に真庭市の特産品を一品加える「真庭特産品プラスワンの日」を実施し、その評価により課題を検証し地産地消の推進に努めます。(5品目＝じゃがいも、玉ねぎ、大根、キャベツ、にんじん) また、学校給食の材料に真庭市産品を使うことで市内での回る経済の仕組みをつくります。そのため、給食における市内産品使用について全量調査を行いながら生産者や納入業者などと安定した価格設定について協議を行い、目標値達成に向けた食材調達確保に努めます。 ・給食材料に真庭市産を使うことと併せて、生産者による講話(真庭食材の日・学校給食週間等)の機会を通じて児童生徒と地域をつなげながら食育と郷育を進めます。 参考:「真庭食材の日」:3回/年。「真庭特産品プラスワンの日」:6回/年。	指標:5品目の地産地消率
	目標値:35%
	(令和6年度実績値:33.0%)
●人口減少抑制対策 子どもたちへの体験活動の実施 (再掲) ・子どもが自由で自発的に遊ぶことができる遊びの機会をつくるとともに、見守ることができる大人を増やし、世代を超えた大人のネットワークを育むことを目指します。	指標:こどもの遊びに関わる大人を対象とした研修会を開催
	目標値:参加者数100人/年
	(令和6年度実績値(見込み):90人)
1-① 教育振興基本計画の重点的施策の目標達成 ・真庭市の教育の目指すべき姿と、その実現のために実施すべき基本施策を示す「真庭市教育振興基本計画」の第3次計画を令和4年3月に策定しました。 本計画では、第2次総合計画改訂版に沿って、「地域循環共生圏」、「SDGs」、「共生社会」、「学校と地域との連携」及び「高校の魅力化」の推進の観点から点検・検証し、必要に応じて見直しを図ります。	指標:重点施策の実施点検
	目標値:点検公表1回/年
	(令和6年度実績値:1回)
1-① インクルーシブ教育の推進 ・真庭市が目指す「共生社会の実現」に向け、小中学校においてインクルーシブ教育を推進します。 指導主事による指導助言、通級指導教員の活用等を通して、すべての児童生徒が学校に来ることを楽しいと感じる「授業づくり」と、児童生徒が自他の個性を尊重し合い、互いに協力して共に伸びていこうとする「集団づくり」を進めます。さらに、専門的な知識を持った機関と連携し、切れ目のない支援体制を構築することで、すべての児童生徒が安心できる居場所と活躍する場がある「魅力的な学校づくり」を支えます。	指標:学校が楽しいと回答する児童生徒の割合
	目標値:小学校90%、中学校85%
	(令和6年度実績値:小学校85.9%、中学校86.2%)
1-① ICT環境の整備(GIGAスクール構想の実現) ・ICTを活用し、個別最適化された学び、創造的な学びの実現に向け、端末を活用した授業が日常化していくことを目標に、次の3つの姿を目指し、取組を推進します。 ・すべての児童生徒、教員が1日1回以上端末を活用して学習、指導している。 ・すべての教員が学習ツールの共有機能を活用した授業を実施している。 ・すべての児童生徒が、毎日端末を持ち帰っている。 ・「端末利活用計画」を各校で作成し、児童生徒による端末活用を進めるとともに、活用事例の交流や効果的な活用の提供に努めます。	指標:学校情報化認定を受けた学校数
	目標値:26校(全校)
	(令和6年度実績値:14校)

1-① 義務教育課程の学び直しを実施 ・誰もが学びたいときに安心して学ぶことができる社会づくりの一翼を担うことを目指し、大人を対象に、国語や算数などの義務教育の学び直しの講座を開催します。また、令和7年度は新たに複数地域での開催を目指します。	指標：学び直し講座参加者数
	目標値：延べ100人
	(令和6年度実績値：72人)
1-② 地域の文化遺産を活用できる体制の整備 ・地域の文化遺産を活用した講座やイベント等の開催、地域団体等が行う取り組みに対する支援を通じ、市民のふるさとへの関心や愛着を高めるとともに、地域の文化遺産を活用できる体制を整備します。	指標：講座・イベント参加者数
	目標値：延べ100人
	(令和6年度実績値(見込み) 郷育講座参加者数：80人)
1-② 子どもたちへの体験活動の実施 ・子どもが自由で自発的に遊ぶことができる遊びの機会をつくるとともに、見守ることができる大人を増やし、世代を超えた大人のネットワークを育むことを目指します。	指標：こどもの遊びに関わる大人を対象とした研修会を開催
	目標値：参加者数100人／年
	(令和6年度実績値(見込み)：90人)
1-② 地域学校協働活動の推進 ・地域全体で子どもを育み、教育の質向上と地域の活性化を図るため、郷育魅力化コーディネーターを配置し、市内全域の地域学校協働本部の推進員を対象に、指導助言やスキルアップのための研修会を開催します。研修会に参加した推進員が、地域と学校のつなぎ役になり、地域の子どもと大人が顔の見える関係をつくることで、「学校を核とした地域づくり」の実現を目指します。	指標：推進員等を対象とした研修会の開催数
	目標値：3回
	(令和6年度実績値(見込み) 研修会の開催数：3回)
1-③ 真庭市図書館みらい計画の推進 「真庭市図書館みらい計画」で示す、「真庭市立図書館は、市民や団体による地域自治の拠点として積極的な役割を果たす」という使命を達成するため、5つの柱（1.公共図書館としての存立基盤の整備、2.子どもの学びへの能動的な貢献、3.地域資源の再評価と新たな価値の創出、4.利用者の知的探究に応えるコンテンツ提供、5.市民が繋がる地域の交流拠点創出）を実行し、市民の「知る自由」や「学ぶ権利」を保障していきます。 ・「真庭市図書館みらい計画」策定にあたって開催した「図書館そだて会議」を引き続き開催し、市民と図書館が対話を重ね、市民とともに図書館の運営状況を確認し、市民の居場所となる図書館を育てていきます。 ・公共図書館と学校図書館の蔵書管理システムを活用して児童生徒が公共図書館の図書を学校で予約・受け取りできる仕組みについてネットワークを再編し、読書環境のさらなる充実を図ります。 ・市民が蔵書の貸し借りだけでなく、図書館が「人と人」、「人と学び」をつなぐ場所となるよう、工夫をこらした市民と協働のイベントを開催していきます。	指標：①実貸出利用率 ②「図書館そだて会議」の開催回数
	目標値：①13%②7回以上
	(令和6年度実績値：①10.9%②9回)

3-④ 学校給食の地産地消の推進 ・学校給食を「郷育」の一環と位置づけ、児童生徒と農業者を繋げ、食材を通じた真庭の豊かさを知る機会を提供します。真庭市の食材のみを使用した「真庭食材の日」、通常の給食に真庭市の特産品を一品加える「真庭特産品プラスワンの日」を実施し、その評価により課題を検証し地産地消の推進に努めます。（5品目＝じゃがいも、玉ねぎ、大根、キャベツ、にんじん） また、学校給食の材料に真庭市産品を使うことで市内での回る経済の仕組みをつくりまします。そのため、給食における市内産品使用について全量調査を行いながら生産者や納入業者などと安定した価格設定について協議を行い、目標値達成に向けた食材調達確保に努めます。 ・給食材料に真庭市産を使うことと併せて、生産者による講話（真庭食材の日・学校給食週間等）の機会を通じて児童生徒と地域をつなげながら食育と郷育を進めます。 参考：「真庭食材の日」：3回／年。「真庭特産品プラスワンの日」：6回／年。	指標：5品目の地産地消率 目標値：35% （令和6年度実績値：33.0%）
1-④ 真庭中央食育センターを活用した食育の推進 ・真庭中央食育センターにおける衛生管理・調理工程や地場産物の活用、行事食・郷土料理などを取り入れた取り組みについて、児童生徒や保護者、地域などの幅広い年齢層の方々を対象として、1ヶ月に数回10～20人程度募集し見学・試食会を実施します。なお、学校行事等クラス・少人数の学年単位での見学は随時受け付け、中学生の職場体験・大学生の臨地実習なども積極的に対応します。また、学校給食では栄養教諭等を2ヶ月に1回程度集めた研修会、夏期休業中を利用し栄養士・調理員の衛生研修・調理講習を行い、真庭のオリジナル共通献立の作成に取り組みます。 ・食育推進ボランティアと連携し、子どもの食の権利についての啓発活動や、地域食文化の継承・日本型食文化の実践に取り組みます。	指標：施設見学・研修会参加者数 目標値：300人 （令和6年度実績値：279人）
1-⑤ 市内高校入学者数の向上（教育魅力化推進事業） 高校は、真庭の未来を担う子どもたちのより良い成長はもちろん、活気があり持続可能な地域をつくる上でも大切な役割を果たしています。令和4年度「高校魅力化推進事業」として取組をスタートさせ、令和5年度からは「教育魅力化推進事業」の中に組み込み、義務教育や社会教育と合わせ一貫性を持って取り組んでいます。 令和7年度は以下のとおり高校の魅力化に取り組めます。 ・勝山高校：進学校としての実績の上積みを目指します。 ・蒜山校地：学校設定教科の充実と学習交流センターを核とした地域と学び合うプログラムの充実による教育魅力化と積極的な情報発信を行います。 ・真庭高校：真庭高校ならではの教科学習の充実、地域と連携した探究的学習活動による教育魅力化と積極的な情報発信を行います。 ・高校2校の管理職が顔を揃えての市教育委員会との定期的情報交換・意見交換の場を設け、引き続き課題解決策を模索します。	指標： ①市内高校入学者数の前年比 ②2校連携事業の実施数 目標値： ①プラス10% ②1回以上 （令和6年度実績値：①市内高校入学者数181人（マイナス9%）②2校連携事業の実施1回）